

## 1. 調査目的等

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

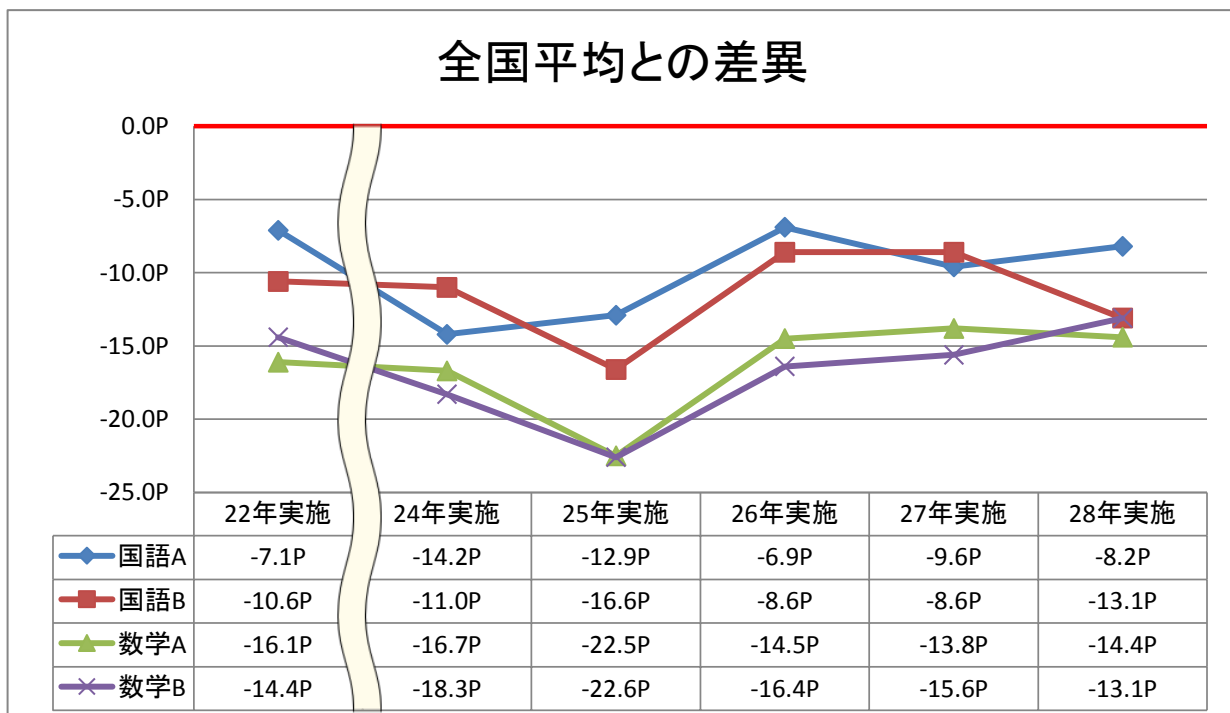
- 全国学力学習状況調査において、全国平均との差を3.2ポイント縮める。  
 国語A:-6.4 国語B:-5.4 数学A:-10.6 数学B:-12.4

## 3. 指標にむけての取組

- 基礎・基本の定着をもとに、活用する力を育てる授業づくりの工夫(表現活動や授業形態等)
- 授業研究による教員の資質向上

## 4. 調査結果

本年度の結果		(平均正答率に対して)			
教科名		国語A	国語B	数学A	数学B
本校(A)		67.4	53.4	47.8	31.0
嘉麻市(B)		69.8	58.8	51.7	35.0
(A) - (B)		-2.4	-5.4	-3.9	-4.0
福岡県(C)		74.8	65.8	60.3	42.4
(A) - (C)		-7.4	-12.4	-12.5	-11.4
全国(D)		75.6	66.5	62.2	44.1
(A) - (D)		-8.2	-13.1	-14.4	-13.1



## 5. 各学校における分析

- 数学科A問題が－14.4p(「数量の関係を文字式に表すことできる」「一次関数のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求めることができる」)に課題、数学科B問題では－13.1p(「加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる。」「与えられた式を用いて問題を解決する方法を数学的に説明することができる」)に課題。
- 国語科B問題が－13.1p(「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える。」「本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」)に課題。

#### 6. 各学校における今後の取組

- 学習過程の一部において個別指導やグループ別指導の時間を設定する等、個に応じた指導を工夫する。
- 毎時間、問題解決の方法の説明をノートに書かせ、それを基に説明する時間を確保する。
- 学習過程の一部において、根拠を明確にした自分の考えを書く活動や話し合う活動を確保する。

#### 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、以下の事項について支援する。
  - ・校内研修における授業参観指導を実施する。
  - ・効果のあった授業モデルを提示する。
  - ・中学校教科教育研究会を年間4回開催し、授業公開及び授業改善に関する協議を行う。